

事 項	受精卵移植における受胎率向上のための人絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)投与方法		
ね ら い	一般に低受胎とされる「黄体ランクFair」(長径1cm未満)の牛に対する移植前後のホルモン処置法については、平成16年度指導参考資料として公表したが、今回、作業の効率化を図るために、発情卵胞と同側卵巣に黄体形成を認めたすべての牛について、移植当日のhCG投与効果を検討したところ受胎率の向上が認められたので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>投与方法</p> <p>1 ホルモン剤投与量：人絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)1,500単位</p> <p>2 投 与 時 期：発情後7日目(受精卵移植当日)</p> <p>3 投 与 部 位：頸部筋肉内注射。</p>		
期待される効果	hCGは安価なホルモン剤で移植と同時に容易に利用できるため、野外における受胎率向上対策として有効な手段である。		
利用上の注意事項	<p>1 「黄体ランクFair」の牛については、受精卵移植前日又は移植後7日目の投与で受胎率が向上するとともに、黄体機能が増強される。(平成16年度指導参考資料参照)</p> <p>2 hCGは獣医師の指示により使用する。</p>		
担 当	青森県農林総合研究センター畜産試験場 繁殖技術研究部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成17年度 日本胚移植研究会		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 投与時期別の受胎成績

(平成15年 共同研究参加10県)

hCG投与日	移植頭数(頭)	受胎頭数(頭)	受胎率(%)
発情後5日目	112	57	50.9 <sup>ab</sup>
発情後7日目	117	65	55.6 <sup>a</sup>
無処置	115	49	42.6 <sup>b</sup>

(注)1 a,b異符号間:5%水準で有意差あり

2 移植:発情卵胞と同側卵巢に黄体形成を認めたすべての牛に実施

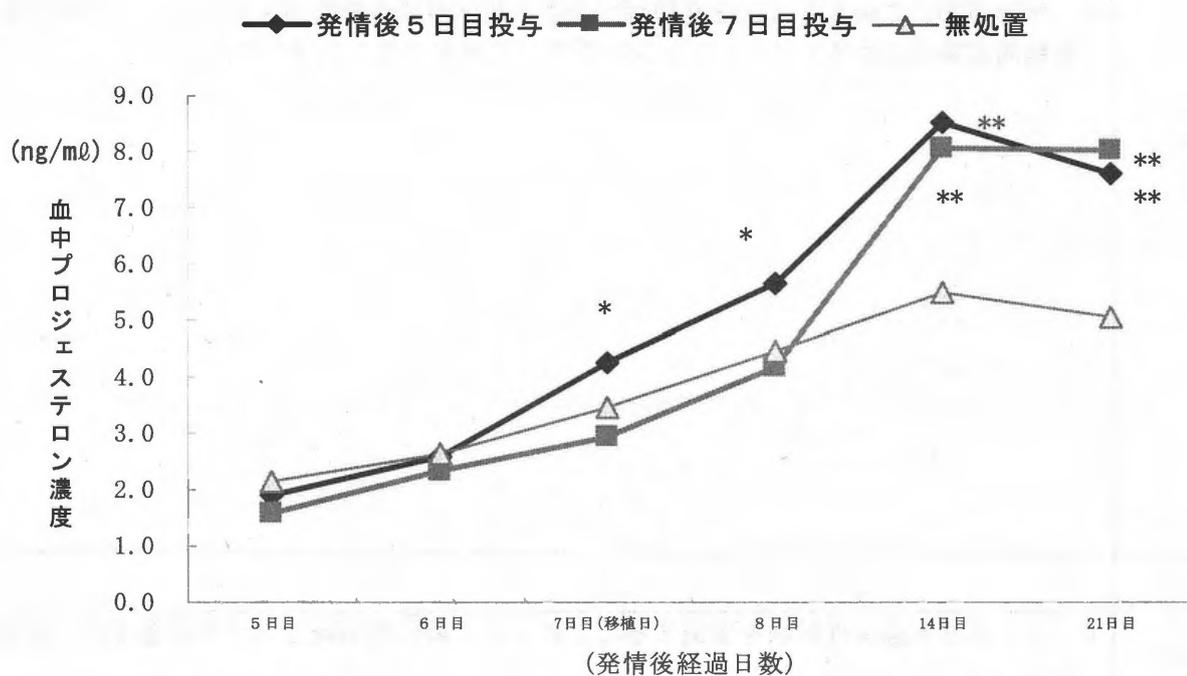


図1 投与時期の違いによる血中プロジェステロン濃度の推移 (n=83)

(平成15年 共同研究参加10県)

(注) \* : 5%水準で有意に増加を示す、\*\* : 1%水準で有意に増加を示す